

社会見学に行ってきました ー濱口梧陵の功績をたずねてー

10月15日(木)、「稲むらの火」であまりにも有名な“濱口梧陵”について学ぶため湯浅に行ってきました。

和歌山駅から湯浅駅まで電車に乗り、そこから歩いて、稲むらの火の館に行きました。ここでは、津波の模型の展示を見たり、応急、復旧、予防のゲームをしたりしました。3Dの映画で、津波から身を守るお作法や梧陵さんの功績がよくわかるドラマをみせていただきました。

その後、語り部の方に、広村堤防を案内していただきました。そこで、濱口ごりょうの人柄を詳しく聞くことができました。地震、津波の震災のわずか3か月後に、ていぼう作りを始めたこと、広村の人が自分たちの力で生活を立て直すために、4年近くていぼう作りしてもらい日当をはらい続けた事、ていぼう建設途中に、ヤマサ醤油工場のある関東地方が震災に合い、支援が困難になったのにもかかわらず、従業員の応援で支援を続けられたことなど、今まで知らなかった話を聞くことができました。小泉八雲(ラフカディオ、ハーン)に、「生きている神」と言われるほどでした。

濱口梧陵は、自分の生まれ故郷とはいえ、ここまで広村のために尽くしたのはなぜなのか、これから子ども達と考えていきたいと思います。

津波シュミレーションで津波の伝わり方が見られます。ちょっとこわかったね。



ゲーム形式で、応急、復旧、予防の防災が学べます。大新レンジャー、がんばって!





広川町役場にある
濱口梧陵像

広村ていぼう
で、語り部さん
のお話を聞きま
した。津波に強
い広村ていぼう
の作るに感心！
梧陵さんの偉
大さを実感しま
した。



今日、濱口こりょうの勉強で社会見学をしました。いなむらの火の館に着きました。そこで分かったことがたくさんあります。3Dシアターをみました。そこでは、つなみ防災が大切なことと人の命の大切さを学びました。濱口こりょうは、貴重ないなむらに火をつけて、村人を助けました。でも、それだけでなく自分のお金でていぼうをつくったことも分かりました。

次に、広村ていぼうに行きました。語り部の人の話を聞きました。ここでもたくさんの方が分かりました。それは、ていぼうをつくったときに、二つの目的があったことです。一つ目は、つなみ防災のためです。二つ目は、村人がどんどん入ってきているので、ていぼうをつくってもらったため。でも、それだけでなく、働いてもらったため村人たちにすくお金をわたしたこと、それにお米もあげたこと、それがわたしは、忘れられません。こりょうは、大変広村のことを愛してほこりに思っていることが感動しました。この人こそが生きる勇気をあたえてくれる先人だと心から思いました。